

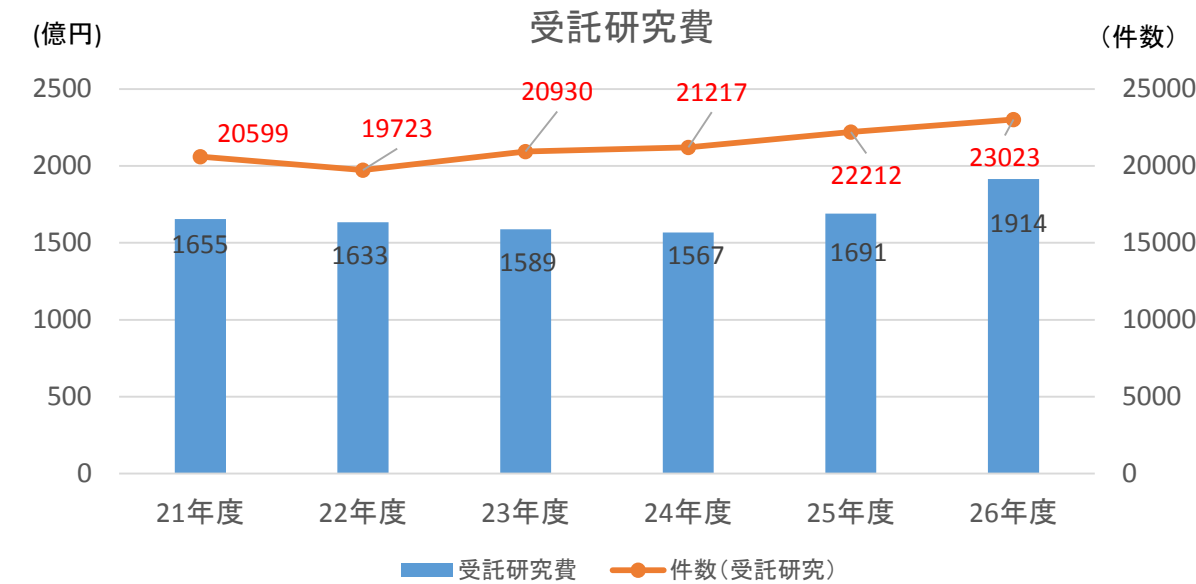
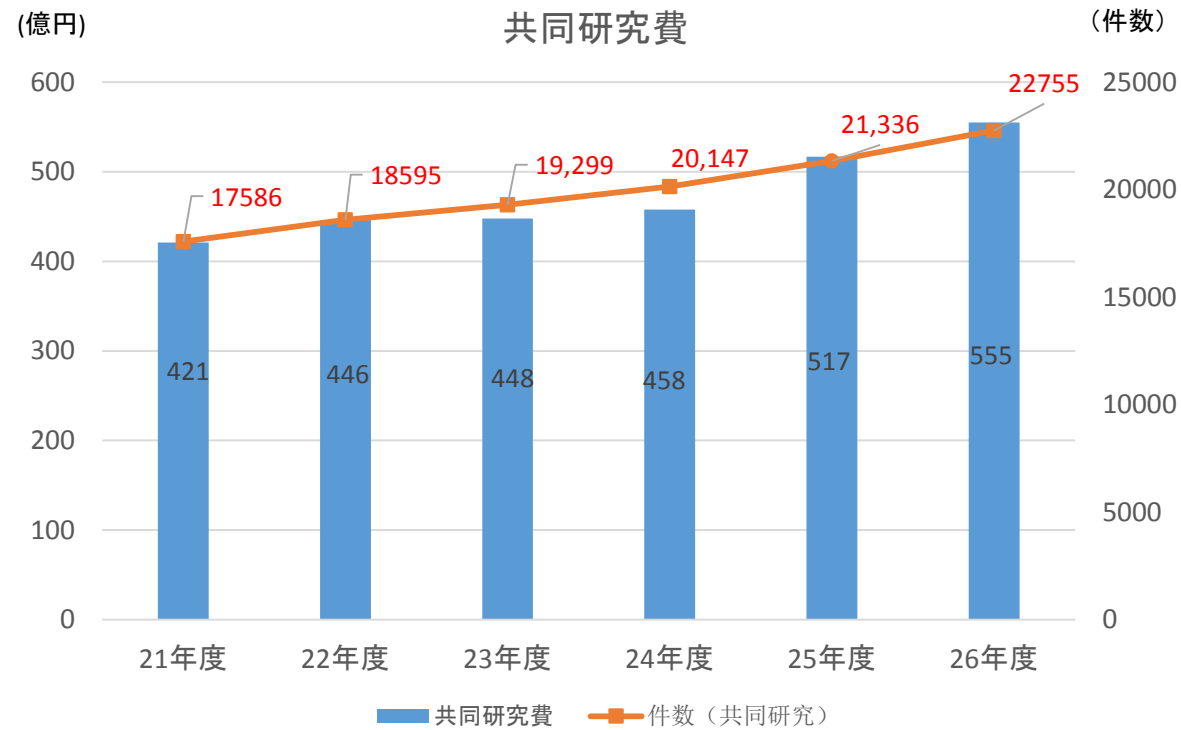
産学連携活動について

1. OISTにおける産学連携活動
2. 産学連携に係る施策
3. 産学連携活動に係る成果事例

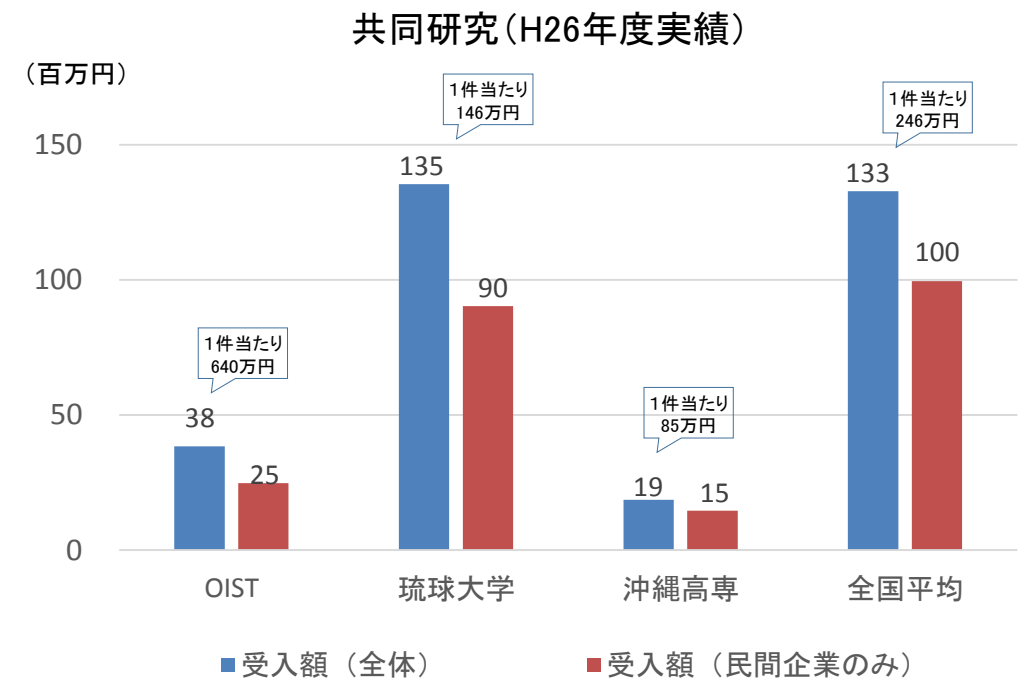
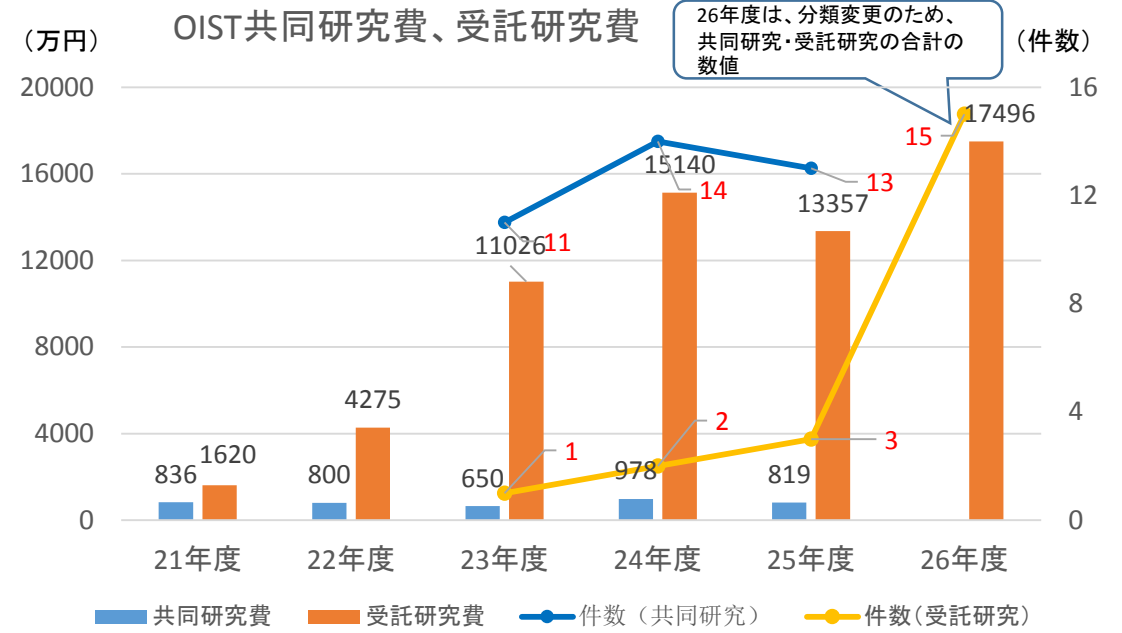
1. OISTにおける産学連携活動

共同研究費・受託研究費

○ 大学全体(国立、公立、私立)



○ OIST

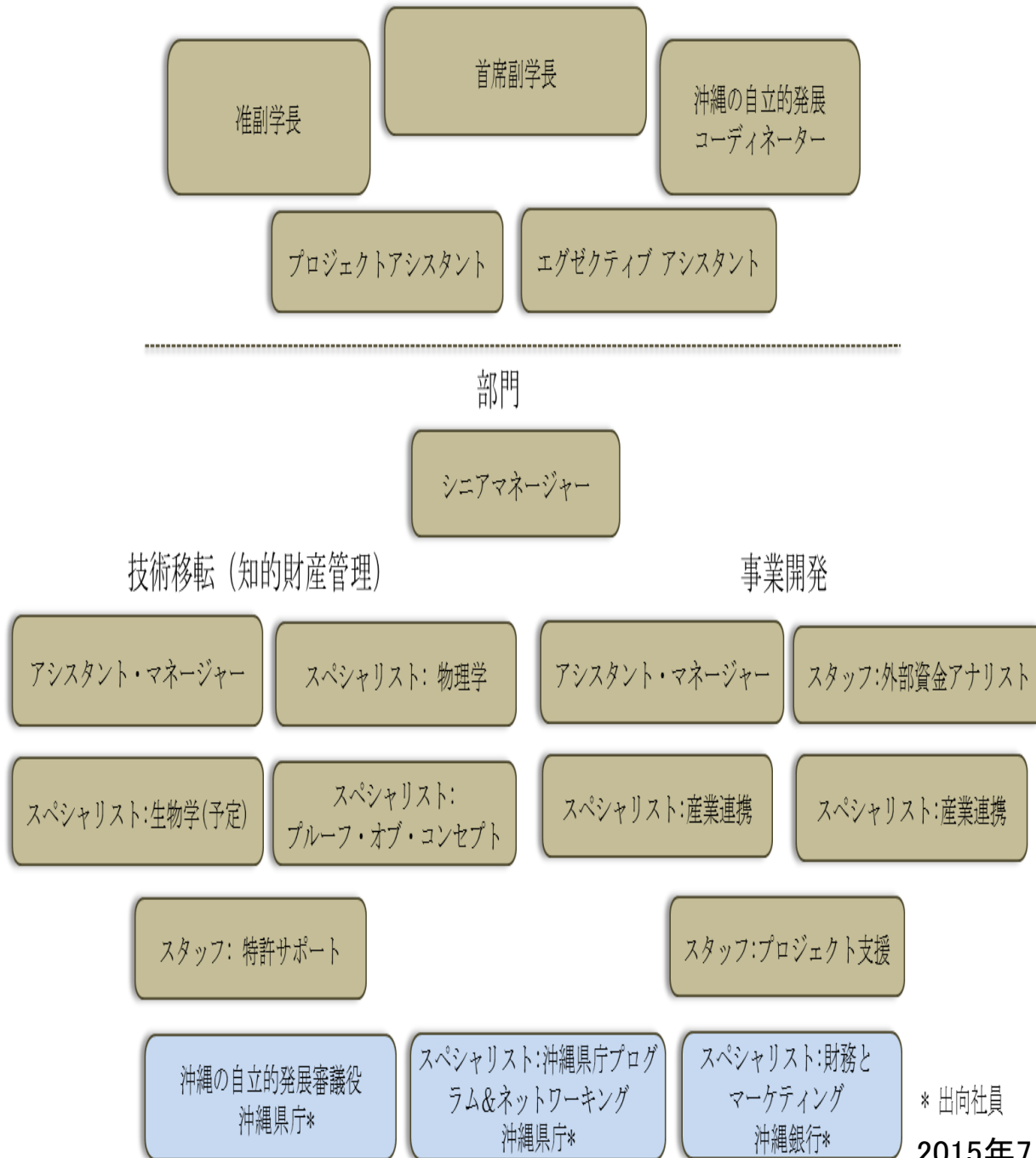


【出典】文部科学省「平成26年度大学等における産学連携等実施状況調査」

(出典)文部科学省「平成26年度大学等における産学連携等実施状況調査」

OISTの産学連携担当セクションの体制と業務内容

組織図：沖縄の自立的発展担当オフィス



業務内容

沖縄の自立的発展担当オフィスは、首席副学長室、技術移転セクション、事業開発セクションの3つが緊密に連携している。

○技術移転セクション

OIST研究者による発明から強固な知的財産ポートフォリオを構築し、それらの技術を元に、商業化を目的とする既存企業に対するマーケティングを行う。

○事業開発セクション

国内外の企業との強固なネットワークを積極的に構築しています。また、イノベーションをもたらす研究パートナーシップを実現するため、OIST研究者や企業と密接に連携し、産業界との受託・共同研究の交渉を進める。

* 出向社員
2015年7月

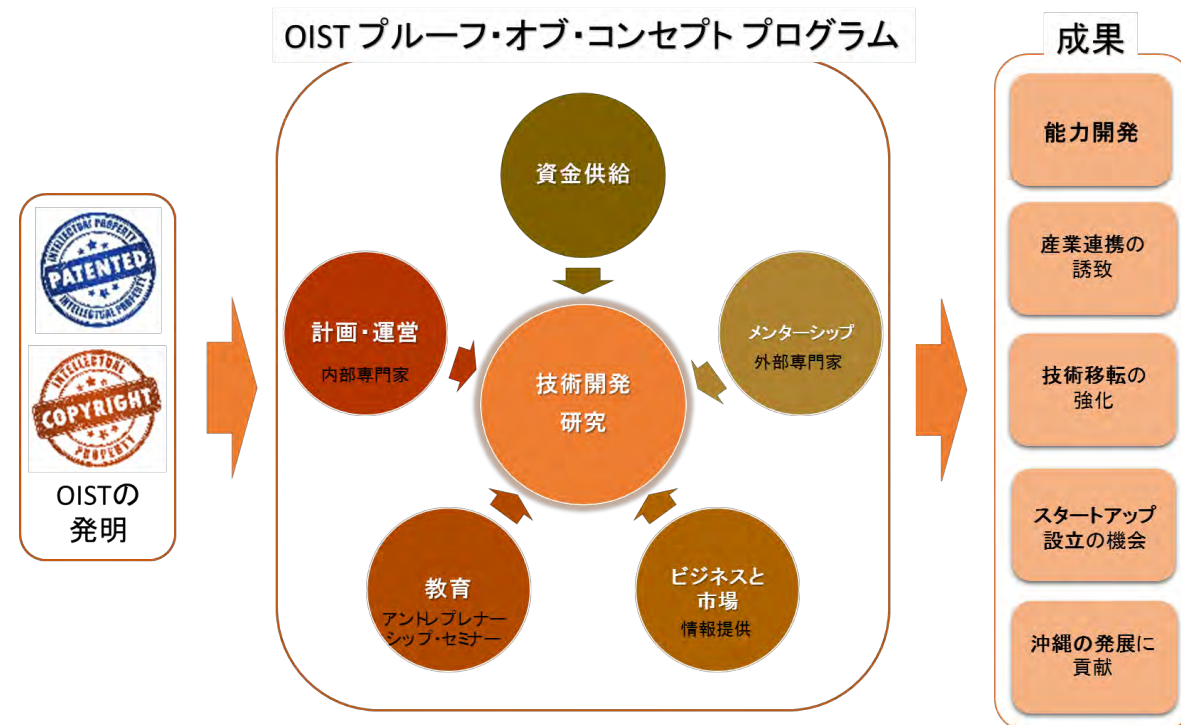
※「沖縄の自立的発展担当オフィス」は、「技術開発・イノベーションセンター」に名称変更

OIST Proof of Concept(概念実証)プログラム

OIST Proof of Concept (概念実証) プログラム

- ・ 同プログラムは、研究における発見を商業化する際に生じる技術面・資金面のギャップを埋め、商業化に橋渡しすることを目的とした産学連携プログラム。
- ・ 研究テーマを学内公募し、採択テーマをOISTとして重点的に支援。資金調達に加えて、技術開発専門家のマンツーマンによるコンサルテーション、技術移転セクションと事業開発セクションのスタッフによる事業管理や知的財産管理のサポートを受ける。

※概念実証とは、プロトタイプ（一通り全体を作り上げる試作）制作の前段階に行う行程で、新しいアイデア等の実現可能性を証明するために行われる部分的なデモンストレーションのこと。



◇ OIST Proof of Conceptプログラム 2015年度パイロット事業

(資格要件)

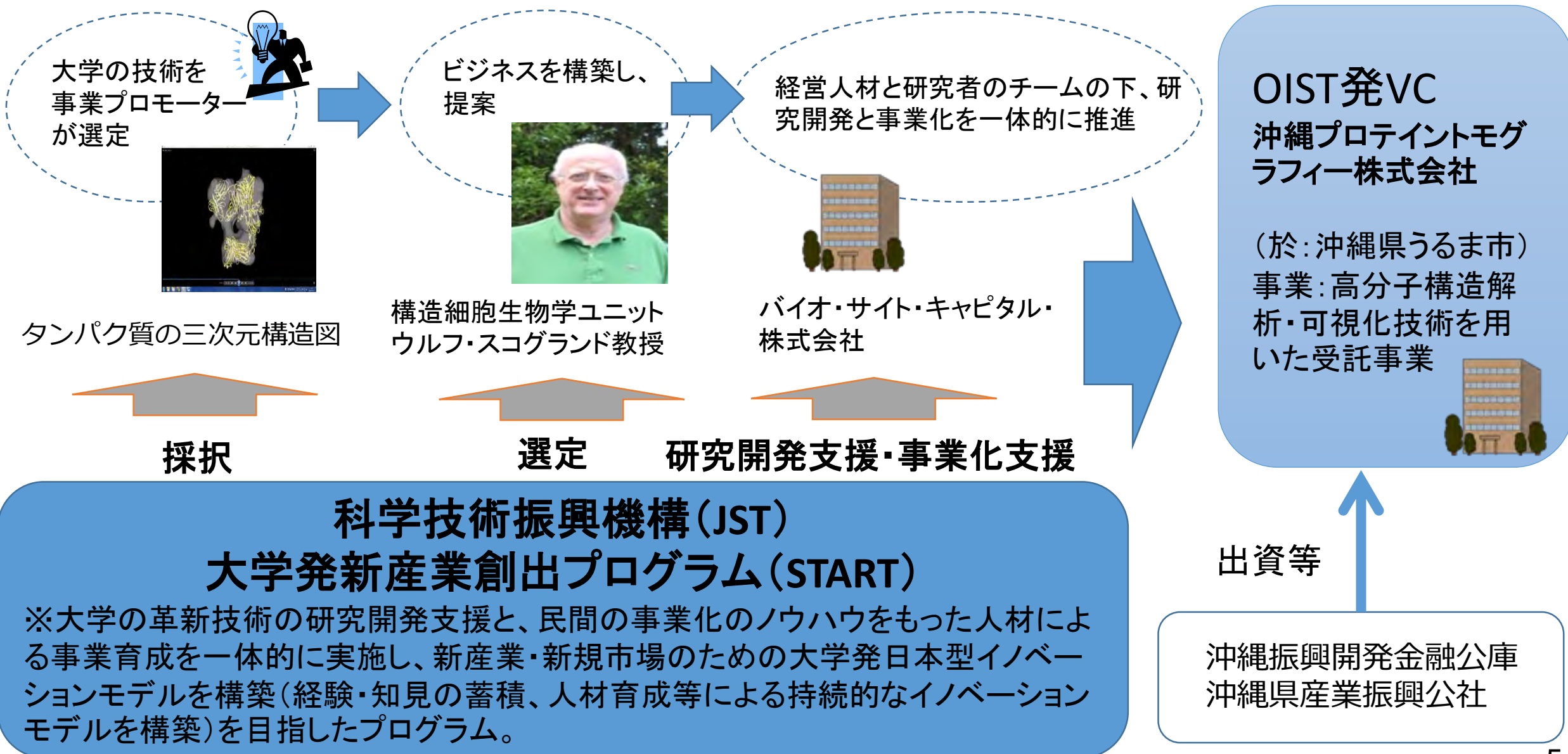
- ・ 発明の開示

(支援内容)

- ・ 資金支援 (500万円ー1,000万円/プロジェクト)
- ・ 外部の技術開発及び産業専門家によるレビュー
- ・ 外部のイノベーション専門家による指導 (1人/プロジェクト)
- ・ プロジェクトマネジメント
- ・ 起業家教育
- ・ ビジネス及び市場動向に関する情報提供

研究からのスピノフ事例<OIST発ベンチャーの設立>

- OISTの構造細胞生物学ユニット代表のウルフ・スコグランド教授が開発したタンパク質等の分子構造の3次元可視化技術を活用したOIST発ベンチャー第一号として、平成26年6月に「沖縄プロテインドモグラフィ株式会社」を設立（代表取締役社長：亀井朗）。
- 沖縄を拠点に国内外の市場に向けて受託解析事業を展開し、沖縄の自立的発展に寄与するグローバル企業を目指す。



産学連携の取組<(株)ミサワホーム総合研究所>

- ・ OISTの統合オープンシステムユニット代表の北野宏明教授は、太陽光発電と風力発電を用いた発電・蓄電システムを構築することにより、電力制御に関する実証研究を実施し、再生可能エネルギーを最大限に有効活用することを目指している。
- ・ 平成28年1月から(株)ミサワホーム総合研究所と再生可能エネルギーの効率性を高め、持続可能な暮らしを実現させる住宅の開発に係る共同研究を開始している。
- ・ 同社から共同研究に係る実験棟の建設資金が提供された。

OISTとミサワホーム総合研究所の共同開発による住宅のイメージ



沖縄の特性や資源を生かした研究 (共同研究を受けて)



「共同研究は途上国や島しょ国も含めた地域において、持続可能かつ快適な生活を実現する『サステナブル・リビング・アーキテクチャ』を推進する大きな一歩となる」

共同開発内容

屋根に設置した太陽電池が発電する際に、発電に寄与しないエネルギー(熱)を活用して室内の除湿を可能にするシステム、壁全面で冷房する放射冷房システムなどを実装する。